



国鉄新潟

NO. 724
 発行
 11・5月15日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 関川 和彦
 編集責任者
 教 宣 部

生活と権利を守り 平和と民主主義を守ろう

第82回メーデー

5月1日、新潟県内各地でメーデーが開催されました。新潟市内では、開会前から小雨が降る天気でした。

新潟県中央集会は、新潟市西大畑公園で開催、雨は降ったりやんだり、あいにくの天気になりましたが、労働者、民主団体など多くの方が参加しました。



新潟市西大畑公園で開催された新潟県中央集會では、文化行事として、9時30分ころに、開幕太鼓で幕開けがあり、メーデー歌の合唱などがありました。

震災犠牲者への黙祷

集會開會前に東日本大震災犠牲者への黙祷を参加者全体で行いました。スローガンでは、東日本大震災からの労働者・国民本位の復興を！

資金だめ込んだ (内部留保)の放出を!

日本の国内総生産(GDP)は、バブル経済崩壊以降、18年間を通して、名目で4.8兆円、わずか1.03%の増加しかありませんでした。しかし、この間も大企業は「売れなくても儲かる体制」を作り、更に国内設備投資に使うはずの純利益を「内部留保」として244兆円(2009年度末)もため込みました。

「働く人の賃金は上がらず、雇用の場も少なく、内需から外需へと依存し、お金は大企業がため込んだまま循環させない、そこに円高の進行や輸出不振が起き、また、働く人の賃金を低下させ、雇用の圧縮する」マイナスの方程式が出来上がってしまったのです。

これを打開するには、働く人の賃金を上げ、雇用の確保と内部留保金を国内設備投資に使うことが必要なのです。

ため込んだお金を日本国内できちんと循環させるのが、日本経済を元気にする特效薬です。



「安全神話」の原子力行政からの転換!など「貧困と格差の解消。すべての労働者の賃上げと雇用確保で内需拡大を。社会保障制度の充実を。など全体で確認しました。

被災地からの訴え

被災地からの特別報告で、福島県労連の代表の方が出席し現状が報告されました。

そして、争議組合の紹介では、ダイワハウスに不当解雇された吉田さんの現状報告など県内で闘っている方々の実態が報告されました。

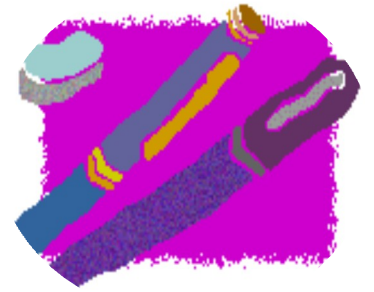
その後、プラーカード・横断幕などの表彰がされ全体での団結がなばろうを力強く行いデモに移りました。



ました。

天気は、デモ行進の時刻になると青空が広がり、雨はやみました。デモ行進は、新潟市中心部で行われ多くの市民に、要求・要望などシュプレヒコールで訴えました。

文芸特集



今回の文芸特集は「鉄道川柳」の平成11年7月号の、山脈集推薦作品を紹介します。

「国鉄新潟」では、文芸特集を企画し連載してきましたが、どうでしょうか？

いろんなジャンルを企画・特集をしていきたいと考えています。多くの方々からの投稿をよろしくお願いします。

何でもかまいません～国鉄新潟についてのご意見、身近なことなど、地本教宣部まで送ってください。



山脈集推薦作品

藤沢 岳豊 選

下積みのきれいな汗と生きている	田中道博	騙されてやろう罪ない嘘だから	小島宏
ためし切りされる大根の尻っば	大村美千子	母の勘すぐ風のいろ言い当てる	吉池文酔
遠過ぎた追憶はみな美しい	河本春峰	家宝などないが宝の妻が居る	中尾飛鳥
余生でも何かに燃えてみたくなる	森本吉則	真相を追えば乾いた風に逢う	山田不及
胃の隅に男の意地を置く疼き	丸山都庵	頷いてばかり弱気を見抜かれる	黒沢かかし
さて古希よ余白気ままに書くがよい	嶋屋孤舟	一本の芯は通してある背骨	吉野和夫
乾杯に男のいのちひびき合う	本園はるを	血の絆切れてしまった冬の景	池永龍生
聞やがて背はそれぞれに風の中	佐藤康	金銭で買いぬ心を学びとり	細田功
煩惱をひとつ捨ててはまた拾う	永井悠々	真実を貫くスピーチ眼が光る	関根尾幸

新聞のつくりかた

レイアウトを先にする

版下用紙や製版用紙の上で、最初から編集レイアウトをしてしまおう。見出しの位置や大きさ、記事の流れ、かこみ記事、イラストなど、全部の配置を決めて、それに合わせて記事を書く、依頼する方法があります。最初編集してしまおうので、作る新聞のイメージが作られるためこの方法が多く取られています。

専用の原稿用紙をもつ

編集作業にたずさわっていると「700字の記事よ・・・」と言われるより、「50行の記事だ・・・」と言われる方が、頭の中に入りやすく、



「あ、3段分だな」とイメージがすぐ浮かんできます。つまり編集は「行数」が大事という事です。そうなるためには、自分の新聞の1段に入る字数の「原稿用紙」を作成していくことが、早づくりのポイントになります。12字詰め原稿用紙など手製で作っても、できるだけそれに原稿を書いてもらう方法をとります。

編集後記

田植えは、連休でほとんどの農家の方々は終わったようですね。今年は大震災で宮城・岩手・福島では田植えができない状況です。収穫量を補うため、全国各地で例年より多く田植えを行ったようです。新潟県も同様です。一日も早い復興を一人ひとりの力を結集して・・・

